岡崎市
OKAZAKI CITY

令和5年度　不動産IDを活用した官民データ連携促進モデル事業

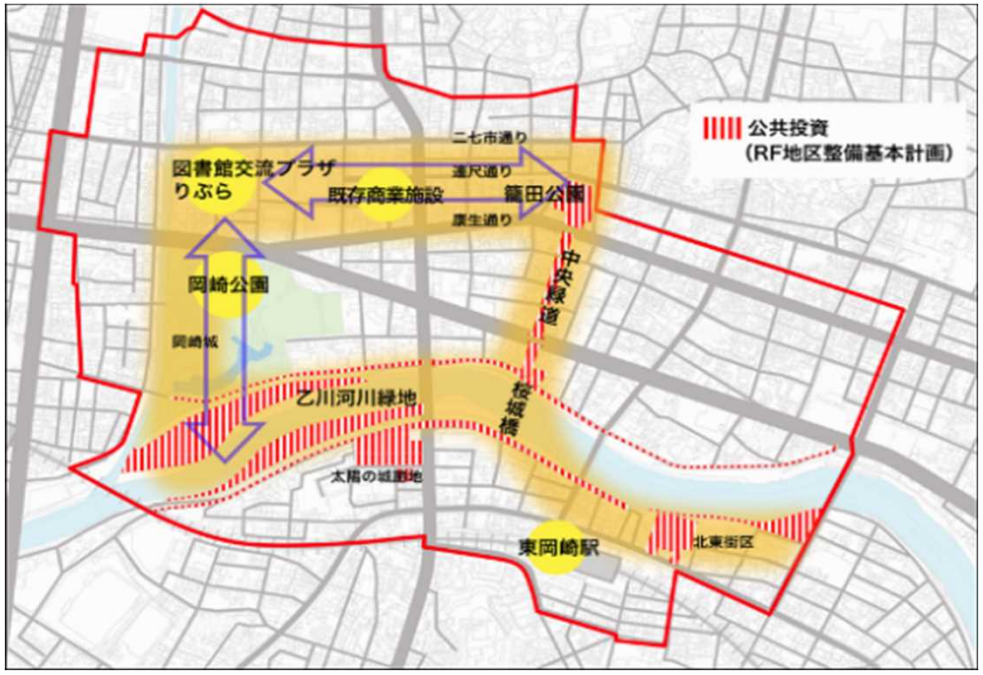
QURUWA商店街活性化

岡崎スマートコミュニティ推進協議会
（岡崎市、西日本電信電話株式会社）

概要

１．実証エリア：乙川リバーフロントエリア

- 新しい街づくりのモデル都市
- 岡崎市の中心市街地１５７ha　人口７８００人



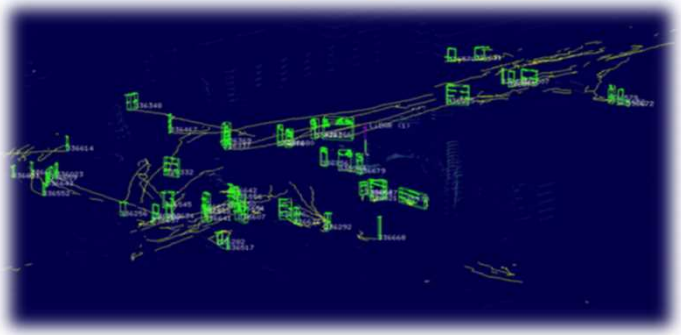
概要

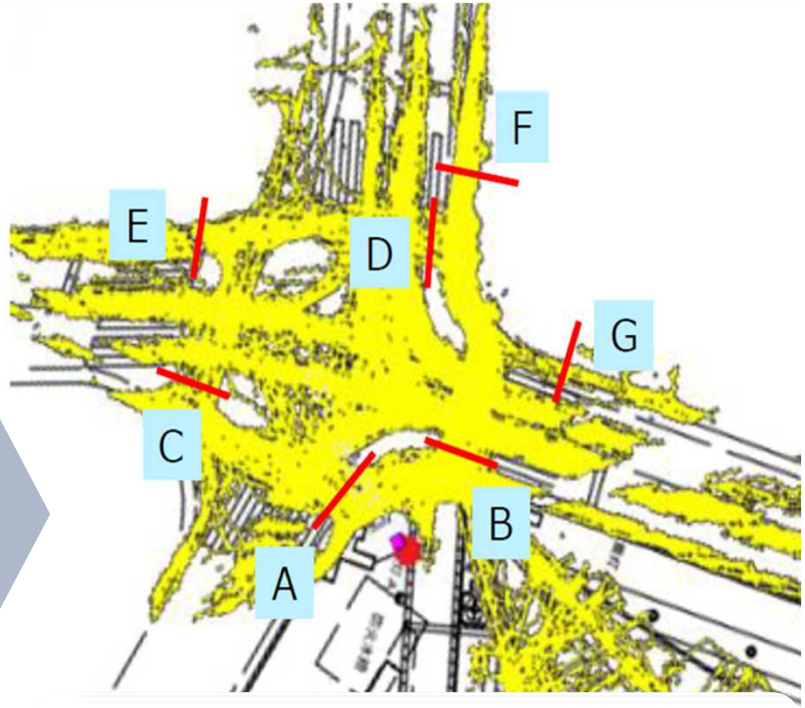
2．都市再生の進捗とこれまでの取り組み

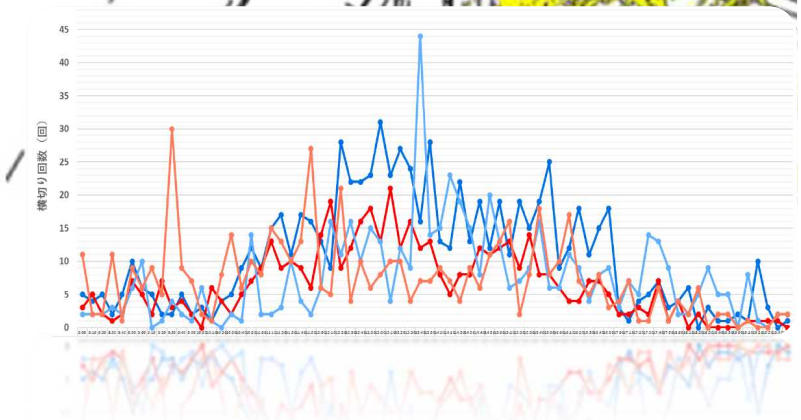
- 都市の魅力と地域の稼ぐ力の向上を目指し、データを活用する取り組みを実施。

都市再生の進捗	データに関する取組	
済 **公共空間整備**	✓ 公共空間整備に伴いセンシング機器（屋外で人流分析カメラ21台常設など）設置	3D-LiDar　カメラ
済 **公民で公共空間イベント活用**	✓ 群衆事故防止、密の予防・緩和、イベント人流ピークの延長、賑わい増加と渋滞緩和の両立など課題解決にデータを活用	分析ソフト
現在の取組 **イベント人流のまちなか波及**	✓ 毎週行われる各種イベントでの人流波及効果測定と次策の検討にデータを活用	分析ソフト
現在の取組 **民間投資の誘導・集積**	✓ 沿道店舗へのイベント人流効果の波及、沿道店舗の稼ぐ力向上にむけPOSデータ等との組合せによる分析にデータを活用	POS

参考：データ実装の例







本事業の取組

3．DX推進に向けた課題・ビジョン

ビジョン

データで可視化されたまちの魅力が、まちの求心力を高め、さらに魅力と拠点性が高まっていく好循環を目指す

- まちなかウォーカブル推進（まちを歩いて楽しむ人流がまちを育てる）
- データ駆動で都市再生を加速させる

課題１：まちづくり担い手からのデータ活用ニーズへの対応
課題２：データ利活用の拡大に向けたオープンデータ推進

可視化されたまちの引力が「スマートなこのまちで〇〇したい」を増幅

本事業の取組

４．不動産IDを活用したユースケース案

活用例

- テナント業種や過去の入替時期などを考慮した街の人流影響データモデリング
- イベント開催時のイベント会場からの店舗種別毎の人流波及効果検証やシミュレーション
- 店舗前歩道空間希望者への人気テナント業態や通行量・属性など情報提供（賃料根拠）

ユースケース１

都市空間（商店街や歩道）での人の
経済活動のテナント業態等の影響解析

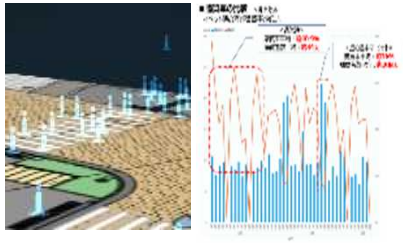
ユースケース２

都市再生に係わるメンバーの恒常的な
会合やワークショップでの施策PDCA

本事業の取組

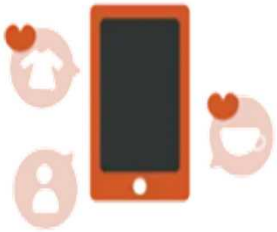
5．将来的な本事業モデルの活用案

観光地経営・商店街活性化



歩道空間出店者、空き店舗出店希望者へ直近の人流や不動産関係データを提供（地域の稼ぐ力UP）

旅行者へのメタマップ提供



旅行者へ統一された観光地・店舗・駐車場情報を提供し、エリア消費行動を促す（地域ブランド力UP）

不動産ID

分散したデータの不動産IDをキーとした、連携・活用

空き店舗データ	店舗データ	歩道活用データ	観光地データ	人流データ	ロケ地データ	駐車場データ
空き店舗位置データ	商店街保有の店舗データ	日時別の歩道出店者データ	観光協会発信のみどころデータ	人流カメラ属性データ	市発信のYouTuberロケ地データ	駐車場位置データ

最後に

６．不動産ID活用への期待について

岡崎市 OKAZAKI CITY　LINK SPARK

“都市再生にむけたスマートシティ”
ここで蓄積する「スマートデータ」と「不動産ID」を連携

都市再生に関する”観光振興や商店街振興”など
広範の課題解決加速に期待

都市再生スマートシティデータ × 不動産ID

観光・商店街課題	交通課題	民間投資誘導課題

都市の拠点性・価値の向上